

# NXJ インストール ガイド

*Release 12*

---

© 2002-2008 Unify Corporation All rights reserved. Sacramento California, USA

No part of this tutorial may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Documentation Group values and appreciates any comments you may have concerning our documents. Please address comments to:

doc@unify.com

1-800-24 UNIFY or 1-800-GO-UNIFY;(916) 928-6400

FAX (916) 928-6401

UNIFY and DataServer are registered trademarks of Unify Corporation. Unify NXJ is a trademark of Unify Corporation. Java and J2EE are registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries. JReport is a trademark of Jinfonet Corporation. IBM, Lotus, Lotus Notes, Cloudscape, and WebSphere are trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both. CAS AHL Technology and ecKnowledge are registered trademarks of CAS AHL Technology, Inc. in the U.S. and other countries. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

Name: NXJ Installation and Getting Started Guide

Release: Unify NXJ 12

Last Revision: January 23, 2009 2:55 pm

---

---

<b>1. Unify NXJ のインストールの準備</b>	<b>4</b>
タスク 1 : ターゲット環境のタイプを決定 .....	4
開発環境 .....	4
実行環境 .....	6
タスク 2 : アプリケーションサーバの取得 (オプション) .....	8
タスク 3 : システム要件に適合していることを確認 .....	8
タスク 4 : 必要なサードパーティツールの取得 .....	9
タスク 5 : ホームディレクトリと作業ディレクトリの指定 .....	10
ホームディレクトリ .....	11
作業ディレクトリ .....	12
<b>2. インストールプログラムの実行</b>	<b>13</b>
標準セットアップ (ダイアログベース) .....	13
カスタムセットアップ (ダイアログベース) .....	14
テキストベース (UNIX のみ) .....	15
インストール完了後 .....	16
<b>3. インストール後のタスク</b>	<b>17</b>
タスク 1 : Unify NXJ ツールの起動 .....	17
タスク 2 : マニュアルを参照する方法を理解する .....	18
タスク 3 : サンプルアプリケーションの実行 .....	18
タスク 4 : チュートリアルアプリケーションの実行 .....	20
タスク 5 : NXJ アプリケーションの更新 .....	20
既存のプロジェクトを更新する .....	21
再利用を可能にする .....	21
チュートリアルプロジェクトのリセット .....	23
Web ブラウザのキャッシュをクリアする .....	23
<b>4. Unify NXJ をアンインストールする</b>	<b>25</b>
<b>5. JBoss デフォルトポートの割り当て</b>	<b>26</b>

# Unify NXJ のインストールの準備

1

---

この章では、Unify NXJ をインストールする前に必要な作業について説明します。

Unify NXJ には、NXJ 製品のコンポーネントの他にも JBoss アプリケーションサーバがバンドルされています

この章には、Unify NXJ インストールプログラムで表示されるプロンプトへの入力に必要な情報が説明されています。

## タスク 1：ターゲット環境のタイプを決定

Unify NXJ はアプリケーション開発環境と実行環境（実稼働環境または配備環境とも言われる）の両方で使用します。どちらの環境にも、Unify NXJ 製品のどのコンポーネントをインストールし、どのように設定するかを決定するライセンスキーがあります。

### 開発環境

開発環境とは、NXJ アプリケーションを開発し、テストを行う環境です。開発環境では、以下のコンポーネントがインストールされます。

- アプリケーションデザイナー
- NXJ インタクションサーバ
- Java 2 Platform, Standard Edition, SDK (J2SE SDK)

このキットは、NXJ ツールによって内部で使用されるもので、既にインストールされている他のキットに対しては干渉しません。

- NXJ が提供するアプリケーションサーバ：JBoss

これらのコンポーネントは、完全な Unify NXJ 開発環境を作成するためにサードパーティーデータベースや Web ブラウザと組み合わせられます。これらのコンポーネントの詳細については、[9 ページの「タスク 4: 必要なサードパーティツールの取得」](#)を参照してください。

以下の図には、これらのコンポーネントの論理的な相互の関連性を示しています。

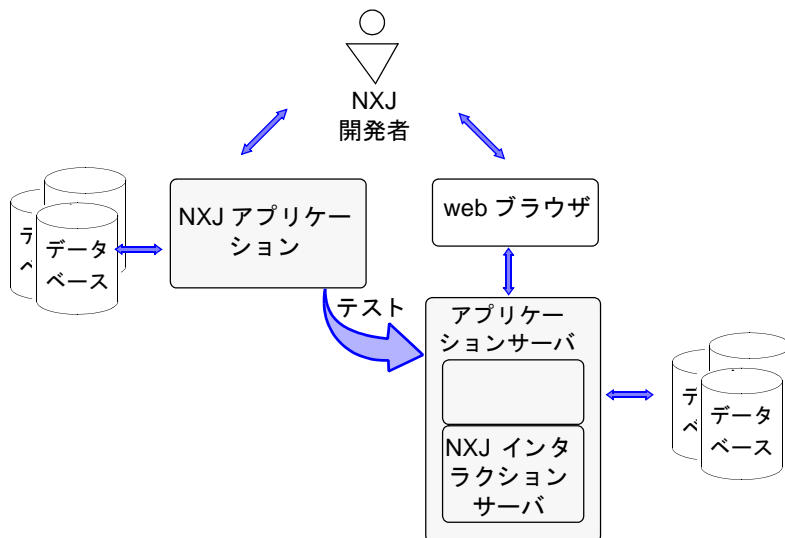
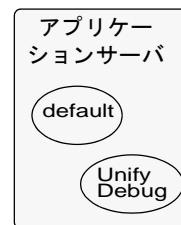


図 1-1 Unify NXJ の開発環境

インストール時に、次の開発環境が設定されます。

- アプリケーションサーバコンポーネント内に、デフォルトサーバのインスタンスとデバッグサーバのインスタンスが作成されます。

ほとんどのアプリケーションサーバのデフォルトサーバインスタンスには、“default”という名前が設定されますが、OracleAS アプリケーションサーバのデフォルトサーバには“home”、BEA アプリケーションサーバのデフォルトサーバには“standard”、WebSphere アプリケーションサーバのデフォルトサーバには“server1”という名前が設定されます。デフォルトサーバは、アプリケーションの設計が、デザイナーの要求にあっていないかを判断するためにアプリケーションをテストしている間中使用されています。デバッグサーバインスタンスは、NXJ デバッガを使ってアプリケーションをテストす



---

るために使用します。デバッグサーバには個別の JVM 設定やパラメータが必要なため、アプリケーションサーバインスタンスも個別に必要です。すべてのアプリケーションサーバのデバッグサーバインスタンスに“UnifyDebug”という名前が設定されています。“UnifyDebug”は、アプリケーションデザイナーからアプリケーションのデバッグをサポートするために必要です。

## 実行環境

実行環境は、NXJ アプリケーションを配備して管理する環境で、アプリケーションのエンドユーザがアクセスします。実行環境では、以下のコンポーネントがインストールされます。

- NXJ インタラクションサーバ
- Java 2 Platform, Standard Edition, SDK (J2SE SDK)

このキットは、NXJ ツールによって内部で使用されるもので、既にインストールされている他のキットに対しては干渉しません。

- NXJ が提供するアプリケーションサーバ：JBoss もしくはユーザが選択するベンダーのアプリケーションサーバ

開発環境の場合と同じように、これらのコンポーネントも、完全な Unify NXJ 実行環境を作成するために、1つ以上のデータベースや Web ブラウザを組み合わせます。これらのコンポーネントの詳細については、[9 ページの「タスク 4：必要なサードパーティツールの取得」](#)を参照してください。

以下の図には、これらのコンポーネントの論理的な相互の関連性を示しています。

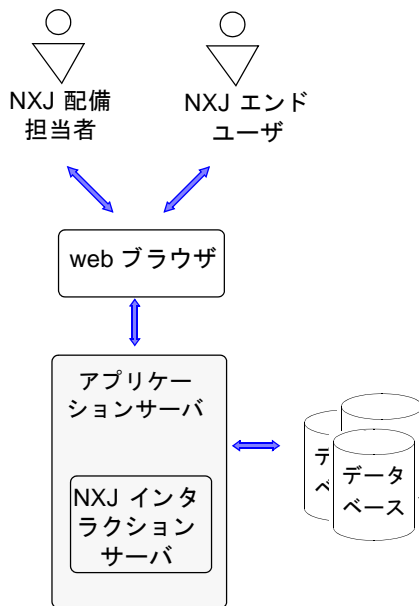


図 1-2 Unify NXJ の実行環境

---

インストール時に、次の実行環境が設定されます。

- 開発環境の場合と同じように、デフォルトサーバインスタンスが作成されます。これは、NXJ アプリケーションを配備可能なサーバインスタンスです。



NXJ 12 Enterprise Developer では、NXJ アプリケーションの運用製品の配備を行うには、実行ライセンスを購入する必要があります。NXJ 12 Enterprise Developer の実行ライセンスでは、接続は3つまでに制限されています。NXJ 12 Developer Edition の場合、実行ライセンスは無制限です。

## タスク 2 : アプリケーションサーバの取得 (オプション)

Unify NXJ には JBoss アプリケーションサーバがバンドルされており、デフォルトでインストールされます。Unify NXJ が提供するアプリケーションサーバを使用しない場合は、サードパーティのベンダーから別のアプリケーションサーバを取得してインストールすることができます。現在、Unify NXJ で動作するアプリケーションサーバ製品は以下のとおりです。

- BEA WebLogic
- IBM WebSphere
- JBoss
- OracleAS

アプリケーションサーバ製品は、Unify NXJ がサポートしているものだけをご使用ください。サポートされているアプリケーションサーバ製品名とバージョンについては、『Unify NXJ がサポートする構成』を参照してください。

## タスク 3 : システム要件に適合していることを確認

Unify NXJ 開発環境に使用するホストは Windows、または Linux ホストです。実行環境のホストは Windows、または UNIX です。

ターゲットホストの OS のバージョンとシステム要件については、『Unify NXJ がサポートする構成』を参照してください。



---

## タスク 4 : 必要なサードパーティツールの取得

Unify NXJ 開発環境と実行環境では、以下のサードパーティツールが必要です。

- Web ブラウザ

実行環境では、NXJ アプリケーションのエンドユーザは、エントリポイントの JSP ページに Web ブラウザからアクセスします。

開発環境では、Web ブラウザによってアプリケーションのテストやフォームをプレビューします。

Web ブラウザは Internet Explorer、Netscape Navigator、Mozilla、Firefox がサポートされます。使用できる Web ブラウザのバージョンについては、『Unify NXJ がサポートする構成』を参照してください。

選択したブラウザによって、アプリケーションの動作が変化する場合があることに注意してください。例えば、Netscape、Mozilla、Firefox の Web ブラウザを使用する場合、以下の表示問題が発生します。

- 戻るボタンの矛盾する動作（時々動作しない）。
- ブラウザを更新する時の矛盾する動作。アプリケーションを終了して再起動する原因となります。
- ポップアップウィンドウがブロックされる場合、次フォームの選択、ズームフォーム、yes/no ダイアログ等の一部の NXJ 機能が動作しない。
- NXJ ActiveReporting 機能 : DHTML 形式のレポートはサポートされない。NXJ ActiveReporting Viewer と NXJ ActiveReporting Administrator のツールチップは表示されません。

(NXJ ActiveReporting 機能は、日本語環境ではサポートされていません。)

### Firefox

Firefox で、デフォルトのポップアップ設定は、フォームアプリケーション、ActiveWorkflow Administrator、NXJ ActiveReporting viewer、NXJ ActiveReporting Administrator 等、多くの NXJ ツールをブロックします。デフォルトのブラウザとして Firefox を使用する場合、以下の通りにします。

- URL アドレスフィールドで、`about:config` を入力します。
- "`dom.allow_scripts_to_close_windows`" の設定を確認し、ダブルクリックして True に設定します。これで、ブラウザウィンドウは終了します。

- 
- `dom.disable_window_open_feature.status` の設定を確認し、`false` に設定します。これは、オプションリストとオプションボタンのダイアログに影響します。
  - `network.http.max-persistent-connections-per-server` の設定を確認し、デフォルトの 2 を 4 に設定変更してください。
- データベース

NXJ アプリケーションからデータベースにアクセスする必要がある場合、開発環境と実行環境の両方のホストでデータベースが利用できる必要があります。ほとんどのデータベースにおいて、必要な JDBC ドライバは Unify NXJ に同梱されています。Informix、MySQL、MS SQL の運用版の場合、『Unify NXJ がサポートする構成』に記載されている方法で、ベンダーの Web サイトから JDBC ドライバをダウンロードする必要があります。IBM DB2 の場合、必要な JDBC ドライバは IBM DB2 クライアントインストールの一部に含まれています。

Unify NXJ で使用される JDBC ドライバの詳細については、『Unify NXJ 開発者ガイド』の第 3 章「プロジェクト」で「プロジェクトの作成」を参照してください。

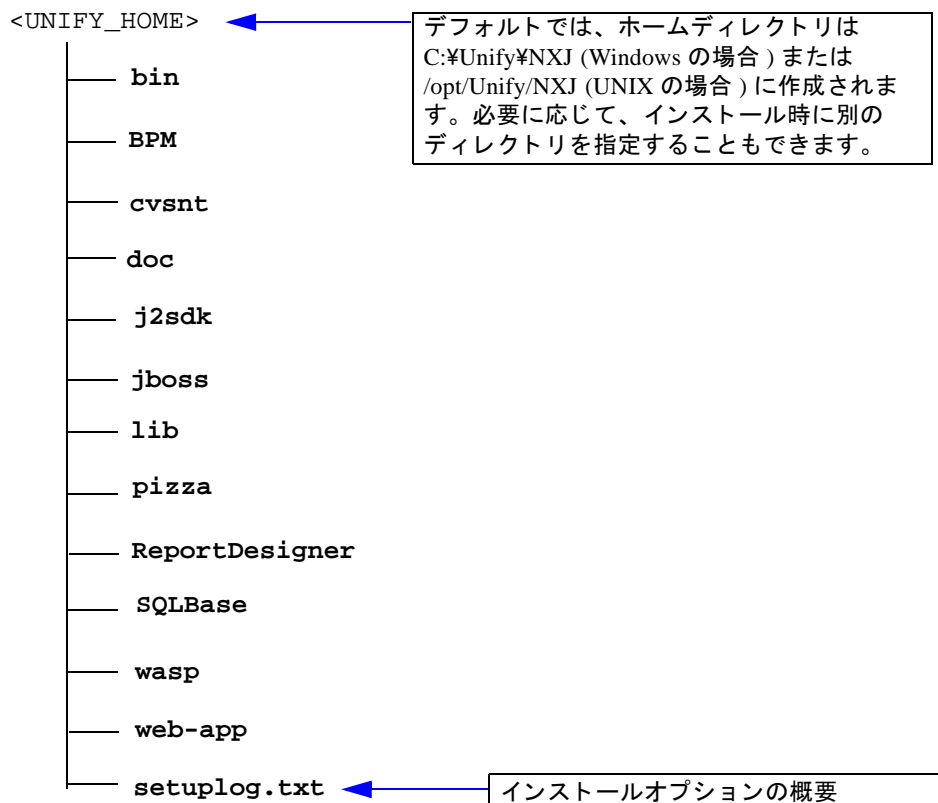
## タスク 5 : ホームディレクトリと作業ディレクトリの指定

Unify NXJ のファイルは 2 つのディレクトリにあります。ホームディレクトリと作業ディレクトリです。このようにすると、アプリケーションコードとソフトウェア本体を別々に管理できます。作業ディレクトリで作成されたディレクトリやファイルは、Unify NXJ のアンインストール時に削除されたり、更新時に上書きされることがありません。

以下のセクションでは、それぞれのディレクトリについて説明します。

## ホームディレクトリ

ホームディレクトリには Unify NXJ 本体のファイルが含まれています。ホームディレクトリの構造は以下のとおりです。

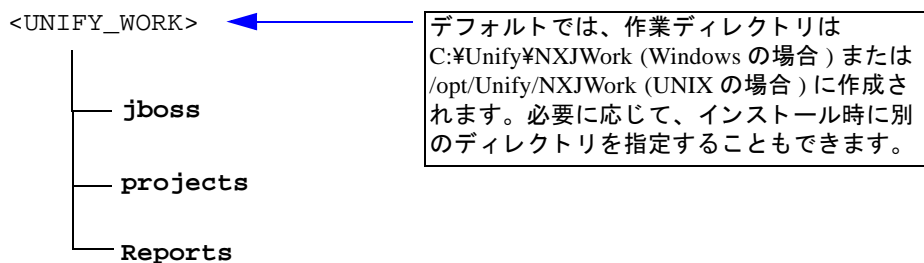


このマニュアルでは、ホームディレクトリを <UNIFY\_HOME> と表します。

---

## 作業ディレクトリ

作業ディレクトリには、Unify NXJ のサンプルプロジェクトとチュートリアルプロジェクトが含まれています。ユーザのプロジェクトもここに含まれます。作業ディレクトリの構造は、以下のとおりです。



このマニュアルでは、作業ディレクトリを <UNIFY\_WORK> と表します。

この章に記載されている準備が完了したら、次の章で説明するインストールプロセスが開始できます。

# インストールプログラムの 実行

## 2

Unify NXJ には、以下のインストール方法があります。

- 標準セットアップ（ダイアログベース）
- カスタムセットアップ（ダイアログベース）
- テキストベース（UNIX のみ）

## 標準セットアップ（ダイアログベース）

このセットアップでは、開発環境と実行環境のどちらでも Unify NXJ を簡単にインストールできます。インストールプログラムは可能な限りデフォルトのインストールオプションを使用します。JBoss デフォルトアプリケーションサーバは、“Unify NXJ Development Server” という名前のシステムサービスとしてインストールされ、開始されます。

Unify NXJ の評価用の CD からインストールする場合は、Flash プレゼンテーションと Unify NXJ の評価の参考になる追加情報も表示されます。“Install NXJ” を選択すると、ここで説明する標準のセットアップが表示されます。Unify NXJ の評価用の CD には評価用ライセンスが付属しています。

このタイプのインストールを実行する手順は以下のとおりです。

1. Unify NXJ をインストールするホストに、Administrator（管理者）権限を持つユーザでログインします。
2. CD ドライブにソフトウェアの CDROM を挿入します。  
インストールの開始ページが表示されます。
3. **次へ** ボタンをクリックします。  
ライセンスキーページが表示されます。
4. ライセンスキーを取得します。

---

Unify NXJにはライセンスキーが必要です。インストールプログラムではライセンスキーの入力が求められます。

キーを取得したら、それをライセンスキーフィールドにカット & ペーストできます。また、シリアル番号フィールドにシリアル番号を入力します。

5. **次へ** ボタンをクリックして、ソフトウェア使用許諾書パネルに移動します。
6. 許諾書の内容を確認し、セットアップタイプパネルに移動するために、同意しますをチェックします。
7. セットアップタイプパネルで、標準オプションがデフォルトで選択されます。

残りのパネルの指示に従い、Unify NXJ のインストールを完了します。

---

**注** – JBoss アプリケーションサーバは、各 Web サービスにいくつかのポートの割り当てを必要とします。可能な場合は、デフォルトのポート番号が使用されます。そうでない場合はインストールプログラムは、概要パネルに表示される異なるポート番号を割り当てます。JBoss のデフォルトのポート番号のリストについては、[26 ページの「JBoss デフォルトポートの割り当て」](#)を参照してください。

---

## カスタムセットアップ (ダイアログベース)

この方法では、使用環境に最も適したインストールオプションが指定できます。例えば、システムサービスではなくスタンドアロン処理として JBoss デフォルトアプリケーションサーバを実行するように選択することができます。

このタイプのインストールを行うステップは、以下のとおりです。

1. Unify NXJ が提供するアプリケーションサーバ (JBoss) を使用しない場合、使用するアプリケーションサーバを開始します。

NXJ インストールプログラムは、必要なサーバインスタンスを作成するために、アプリケーションサーバにアクセスします。このときにアプリケーションサーバインスタンスが作成されていない場合、初めてアプリケーションを配備するときに、これらを作成するためのプロンプトが表示されます。

2. [13 ページ](#)のステップ 1 から 5 に従います。
3. セットアップタイプパネルで、カスタムを選択します。

残りのパネルの指示に従い、Unify NXJ のインストールを完了します。

JBoss のポート番号に関しては、前述の注意を参照してください。

---

## テキストベース（UNIX のみ）

UNIX ホストの実行環境で Unify NXJ をインストールする場合は、この方法を使用します。テキストベースなので、グラフィックディスプレイデバイスにアクセスできないネットワークのホストにも、この方法を使ってインストールできます。例えば、リモートホストに telnet で接続する場合などです。

このタイプのインストールを実行するには、以下の操作を実行します。

1. ターゲットホストで、正しい X サーバを DISPLAY 環境変数に設定します。  
インストールサーバは、実際にはこの X サーバを使用しませんが、インストールプログラムを実行するには、X サーバにアクセスする必要があります。ホストに X サーバがインストールされていない場合には、仮想 X サーバをインストールして下さい。(Xvfb)

Xvfb の詳細については、<http://www.xfree86.org/4.0.1/Xvfb.1.html> を参照して下さい。

2. CD ドライブにソフトウェアの CDROM を挿入します。

ファイルマネージャ ウィンドウが表示されたら、以下の操作を実行します。

- a. CDROM のディレクトリを開き、`setup.sh` をダブルクリックします。

Action : Run ダイアログが表示されます。

- b. 引数フィールドに `-text` を入力します。
- c. Enter を押下します。

Unify NXJ のインストールプログラムがテキストで表示されます。残りの指示に従い、Unify NXJ のインストールを完了します。

ファイルマネージャ ウィンドウが表示されなければ、以下の操作を実行します。

- a. CDROM がマウントされているディレクトリに移動します。
- b. `setup.sh -text` を実行します。

Unify NXJ のインストールプログラムがテキストで表示されます。残りの指示に従い、Unify NXJ のインストールを完了します。

---

## インストール完了後

Unify NXJ が正しくインストールされると、それぞれの環境は以下のコンポーネントで構成されます。

- 開発環境：アプリケーションデザイナ、NXJ インタラクションサーバ、デフォルト jboss アプリケーションサーバ、サンプルとチュートリアルアプリケーションに必要なデータソース定義。
- 実行環境：NXJ インタラクションサーバ、デフォルトサーバ。

選択したインストールオプションの概要は、<UNIFY\_HOME> の **setuplog.txt** ファイルに書き込まれています。

インストール後に実行する重要な作業がいくつかあります。インストール後の作業は次の章で説明します。



この章では、Unify NXJ のインストール後に実行する代表的な作業を説明します。  
(このマニュアルでは、Windows XP 版の Windows XP テーマ画面として説明されています。)

## タスク 1 : Unify NXJ ツールの起動

Windows で、**スタート > すべてのプログラム > Unify NXJ** を選択して、容易に Unify NXJ ツールにアクセスすることができます。

NXJ の以下の機能が使用できます。

- SQLBase - 11.7x 以降のバージョンの NXJ では、SQLBase インターナショナルデータベースとその関連ツールがバンドルされています。このデータベーステクノロジーは、Unify 社によって所有されます。
- Administration - NXJ にバンドルされるデフォルト JBoss アプリケーションサーバを開始するために使用します。
- ActiveWorkflow - この機能は、ビジネスプロセスワークフローの設計を許可します。
- Documentation - NXJ オンラインドキュメンテーションへのリンクです。
- NXJ Developer - NXJ アプリケーションの開発で使用するツールです。
- NXJ Active Reporting - NXJ レポートの開発で使用する機能です。  
(日本では、この機能はサポートされておりません。)

---

**注** - NXJ Enterprise Developer を購入した場合、ActiveWorkflow と ActiveReporting 機能が表示されますが、使用することはできません。

---

---

## タスク 2：マニュアルを参照する方法を理解する

Unify NXJ のマニュアルは、Unify NXJ スタートメニュー、またはアプリケーションデザイナーのヘルプメニューから参照できます。また、以下の URL より直接 Unify 社の Web サイトにて参照できます。

<http://www.unify.com/Support>

オンラインドキュメンテーションは、必要とする情報を見つけやすいように、目次、検索、索引を含む HTML ページです。各ページの最上部にある PDF アイコンを使用して、現在開いているドキュメントの PDF 版を参照してください。

Supplemental Documentation（マニュアルの追加情報）のページでは、専門的なドキュメントと次のリリースまでのマニュアルの最新情報を入手できます。このページの URL は次のとおりです。

<http://www.unify.com/products/nxj/documentation/supplemental/index.htm>

また、Unify テクニカルサポート “How To” 例は以下のサイトより利用できます。

[http://support.unify.com/supportwiki/index.php/NXJ\\_Developer](http://support.unify.com/supportwiki/index.php/NXJ_Developer)

## タスク 3：サンプルアプリケーションの実行

Unify NXJ にはすべての機能が利用できる注文 / 請求のサンプルアプリケーションが用意されています。サンプルアプリケーションには Unify NXJ の機能が盛り込まれています。サンプルアプリケーションを利用すると、Unify NXJ アプリケー

シヨンの開発方法と配備方法が理解できます。このサンプルアプリケーションを、実際の NXJ 注文処理アプリケーションのテンプレートとして使用することもできます。

Invoice #	Order #	Invoice Date	Total Amount	Date Paid	Amount Paid
89954	111384	01/17/2003	1,421.27	02/21/2003	1,421.27
89957	111388	01/17/2003	3,479.72	02/21/2003	3,479.72
89971	111408	01/21/2003	1,286.28		0.00
90194	111759	03/19/2003	87,615.76		0.00
90221	111822	03/25/2003	3,282.75		0.00

Status: Paid    Amount Outstanding: 0.00    Due Date: 02/16/2003    Overdue: 0

デフォルトでは、このサンプルアプリケーションのプロジェクトは、インストール後に初めてアプリケーションデザイナーを起動すると表示されます。それ以外のときにサンプルアプリケーションを開くには、**ファイル > プロジェクトを開く > <UNIFY\_WORK> > projects > examples > ordinv > ordinv.prj** を選択します。

サンプルアプリケーションを実行するには、**実行** ボタンをクリックします。



実行ボタン

---

サンプルアプリケーションには独自のヘルプシステムがあります。サンプルアプリケーションのヘルプは、ヘルプのリンクをクリックするか、Web ブラウザで <UNIFY\_WORK>%projects%examples%ordinv%sources%Static\_Content%html%help%help.html を指定すると利用できます。

埋込み型 Fositex ドライバを使用するため、JBoss アプリケーションサーバのみがサンプルアプリケーションをサポートします。

## タスク 4 : チュートリアルアプリケーションの実行

Unify NXJ には、NXJ アプリケーションの開発、テスト、配備、実行プロセスの基本を、あらかじめ設定されたプロジェクトとデータベースを使って説明するチュートリアルアプリケーションとマニュアルが用意されています。チュートリアルには、いくつかのレッスンがあります。興味のある箇所を選んで Unify NXJ を試してみましょう。

チュートリアルアプリケーションは、Rofida という架空の会社の経費報告システムに基づいています。

チュートリアルを開始する方法については、『Unify NXJ チュートリアル』のマニュアルを参照してください。アプリケーションデザイナーのヘルプメニューから、ヘルプ > チュートリアルを選択します。



チュートリアルは、JBoss アプリケーションサーバと同様に埋込み型 Fositex ドライバを使用します。

## タスク 5 : NXJ アプリケーションの更新

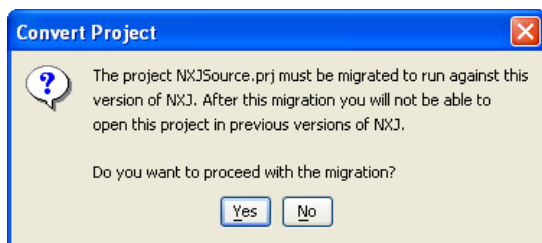
このセクションでは、既存の NXJ リリースに Unify NXJ リリース 10.5 をインストールする場合に、プロジェクトの移行をアシストするために実行するタスクを説明します。

## 既存のプロジェクトを更新する

変更を行うためにアプリケーションデザイナーからプロジェクトにアクセスしたい場合、Unify NXJ の以前のリリースで開発した NXJ アプリケーションは、このリリースに移行されなければなりません。配備したアプリケーションを更新する必要はありません。リリース 10.5 以前のリリースで作成されたアプリケーションパッケージは、以前のリリースと同じように実行されます。

プロジェクトを移行するには、アプリケーションデザイナーの新しくインストールされたバージョンでプロジェクトを開きます。

アプリケーションデザイナーは、以下のダイアログでプロジェクトを移行するためのプロンプトを表示します。



はい ボタンをクリックします。移行状況が報告されます。

移行が完了している場合、アプリケーションデザイナーでアプリケーションの開発を続けることができます。アプリケーションデザイナーのいくつかのエリアは、再利用機能と関連があるため稼働しません。このリリースで提供される再利用機能を利用するプロジェクトを再処理したい場合、プロジェクトに再利用機能を使用することができるようにしなければなりません。

## 再利用を可能にする

再利用機能がプロジェクトのために利用可能になる場合、アプリケーションデザイナーは、コンポーネントと呼ばれるスタンドアロンコントロールの構築と編集をサポートします。コンポーネントはスタンドアロン編集ユニットになります。この変更は、以前のフォームスクリプトの構造と構文が以下のように変更されることを必要とします。

- 
- ボックスとタブセットのコンテナは、フォームとデータビューが保持するように、独自のスクリプトセクションを持ちます。コンテナ内で宣言されたメソッドとフィールドは、コンテナ自体によって調査されます。スクリプトでは、フォームが構築されるように、セクションはネストされます。

したがって、フォーム上のボックスコンテナにおいて使用される変数へのリファレンスは、以前のリリースでは単に“myVariable”だったところが、今は“box1.myVariable”として表示されます。

- ダイナミック式は、変数が定義されるコンテナに限定されます。
- フォームのフィールドへのリファレンスは、<form>トークンに限定されません。
- データビューの変数へのリファレンスは、データビュー名に限定されます。
- 異なるコンテナのコマンドへのリファレンスは、そのコンテナの名前に限定されます。

再利用を可能にするには、**プロジェクト > 再利用機能を有効** を選択します。コマンドがスティップル表示されている場合、プロジェクトは既に再利用可能となっています。

再利用機能を有効 コマンドが発行される時、アプリケーションデザイナーは、上記のリストのように新しいフォーマットにフォームスクリプトを自動的にコンパイルしようとします。ほとんどの場合、変更を行うためにスクリプトを手動で編集する必要があります。例えば、変数が SQL 文で使用される時、更新は、適切なコンテナの必要条件を追加しません。以下のようなコードサンプルになります。

```
EXEC SQL INSERT INTO ENROLLMENT (STUDENT, SCHEDULE,
CLASS,ENROLLMENT_ID)
VALUES ( :entry#currUser.ID, :ELRN_SCHEDULE.ID,
:ELRN_SCHEDULE.CLASS, :ENROLLMENT_ID );
```

ELRN\_SCHEDULE データビューが BOX コンテナ (box1 という名前) にあり、そのため限定されていなければならないため、手動でこれに変更させなければなりません。

```
EXEC SQL INSERT INTO ENROLLMENT (STUDENT, SCHEDULE,
CLASS,ENROLLMENT_ID)
VALUES ( :entry#currUser.ID, :box1.ELRN_SCHEDULE.ID,
:box1.ELRN_SCHEDULE.CLASS, :ENROLLMENT_ID );
```

---

再利用が可能にされた後、エラーを修正するため、まず **プロジェクト > すべて Make** コマンドを発行します。エラーがブラウザパネルのアウトラインタブの Error フォルダにリストされます。エラーを操作して明らかにされるエラーを修正します。エラーメッセージは、エラーが報告されているコンテナとフィールドを示します。

報告されたエラーの多くが、コンテナエラーが訂正されて自動的に修正されたクラスリファレンスを見つけられないことに起因するため、エラーを修正した後、**プロジェクト > すべて Make** を再度発行します。

手動で実行しなければならない他の再利用スクリプトの変更があれば、以下の URL で Unify NXJ Web サイトにこれらをポストします。

<http://www.unify.com/products/NXJ/documentation/supplemental/index.htm>

一旦、プロジェクトのために再利用を可能すれば、それは恒久的に可能となります。プロジェクトのバックアップ版は、ホームディレクトリ（C: ¥Documents と Settings¥<user name>¥sources.jar）で利用できます。

再利用機能についての詳細は、『Unify NXJ 開発者ガイド』の第 7 章「再利用」を参照してください。

## チュートリアルプロジェクトのリセット

他の人がチュートリアルのレッスンを実行した場合、チュートリアルプロジェクトをリセットする必要があります。チュートリアルプロジェクトファイルをリセットするには、アプリケーションデザイナーで **ヘルプ > チュートリアルのリセット** を選択します。チュートリアルのリセット コマンドにより、<UNIFY\_WORK>¥projects のチュートリアルファイルが更新されます。

## Web ブラウザのキャッシュをクリアする

Web ブラウザは、Web ページで使用したイメージをローカルキャッシュに保存します。Unify NXJ の新リリースのイメージがキャッシュのイメージと異なる場合があります。また、NXJ アプリケーションのイメージが更新されている場合もあります。キャッシュに、以前のバージョンと同じ名前のイメージがあれば、以前のバージョンのイメージが使用されます。

Web ブラウザのローカルキャッシュからすべてのイメージを削除する手順は、以下のとおりです。

- 
- Internet Explorer では、**ツール > インターネットオプション** を選択します。全般パネルで、“**インターネット一時ファイル**”の**ファイルの削除** ボタンをクリックします。
  - Netscape Navigator では、**編集 > 設定 > 詳細 > キャッシュ** を選択します。キャッシュパネルで、**ディスクキャッシュをクリア** ボタンをクリックします。



# Unify NXJ を アンインストールする

---

## 4

Windows で Unify NXJ をアンインストールするには、プログラムの追加 / 削除ダイアログを使用します。このダイアログにアクセスするには、**スタート > コントロールパネル > プログラムの追加と削除** で Unify NXJ を選択し、**変更と削除** ボタンをクリックします。スタートメニューの Unify NXJ エントリのみを、エントリ上で右ボタンをクリックし、メニューから削除を選ぶことにより削除することもできます。

<UNIFY\_WORK> ディレクトリは、ホストに残ります。必要に応じて、削除することができます。

Unix で Unify NXJ をアンインストールするには、まずデフォルトサーバとデバッグサーバをシャットダウンして、その後で以下のディレクトリを削除します。

- <UNIFY\_HOME>
- <UNIFY\_WORK>

これらのディレクトリの位置については、[10 ページの「タスク 5: ホームディレクトリと作業ディレクトリの指定」](#)を参照してください。

アンインストールする Unify NXJ インストールに JBoss アプリケーションサーバが組み込まれている場合、同時にアンインストールされます。JBoss アプリケーションサーバが組み込まれていない場合、Unify NXJ をアンインストールしてもアプリケーションサーバファイルは影響を受けません。

# JBoss デフォルトポートの 割り当て

5

表 A-1 は、JBoss アプリケーションサーバ インスタンスのためのデフォルトポートの設定を含んでいます。

表 A-1 JBoss デフォルトポート番号

アプリケーションサーバ インスタンス	ポートの説明	デフォルト ポート番号
default	webServer Service ポート	8080
	web Service ポート	8083
	naming Service (JNDI) ポート	1099
	invocationlayer Service (JMS-UIL2) ポート	8093
UnifyDebug	webserver Service ポート	18080
	web Service ポート	18083
	naming Service (JNDI) ポート	11099
	invocationlayer Service (JMS-UIL2) ポート	18093

Unify NXJ のインストール中に、デフォルトのポートが使用されていた場合、どのサービスにも異なるポート番号が割り当てられます。インストールログ (setuplog.txt) は、アプリケーションサーバ インスタンスによって使用される実際のポート番号を含んでいます。